

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501829), 法人名 (有限会社 プラクティス), 事業所名 (グループホーム せせらぎ), 所在地 (札幌市豊平区平岸6条12丁目17-7), 自己評価作成日 (平成25年12月25日), 評価結果市町村受理日 (平成26年4月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を意識しながら利用者の方々が穏やかにゆったりと安心した生活を送っていただくように努力しています。笑いがあがり無理せず本人のペースに合わせて居心地良いアットホームな雰囲気を目指しています。...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2012\_022\_kani=tr ue&Jigvsvocd=0170501829-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成26年3月28日)

豊平区役所・区民センター・コンビニ・飲食店に近く、向かいには広大な敷地の月寒公園があり、片側3車線の羊ヶ丘通に面している、新築3階建ての事業所である。1階・2階は『複合型ホームせせらぎ』、3階が1ユニットの『グループホームせせらぎ』になっている。...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user safety, and staff support.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をもとにケアを心がけ普通の生活があたりまえに送ることのすばらしさの支援を目指している。事業所独自の理念もあり、毎月の目標をたてケアにつなげていくようにし、確認している。	『法人の理念』『グループホームせせらぎの理念』『毎月の目標』を作り、リビングに掲示している。理念は、ケアの実践につなげるように日々確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事に近隣の方や家族への呼びかけはしている。町内会にも加入し、少しでも行時にも参加できるように努めている。	町内会に加入し、管理者は町内会役員をしている。花いっぱい運動や清掃活動等の地域行事に参加している。介護職員初任者研修や看護学校の実習生の受け入れも積極的にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、説明や質問に応じている。実習生やボランティアの受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、職員にも伝えている。	運営推進会議は、同法人5事業所が合同開催しており、事業報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は市や区の担当者に聞き、管理者会議や連絡会議、研修など参加しカンファレンスや勉強会で報告しケアに役立てるようにしている。運営推進会議には地域包括センター職員も参加しているので意見交換をしている。	行政とは、活動状況報告など連絡を密にし、地域包括支援センターなどの関係機関の助言を得て、ケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は、なぜいけないのか？その都度話をし指導している。拘束はせずに見守りをしながら危険があるときは声かけをし、その都度対策を考える。玄関の鍵は、夜間のみしている。	夜間以外、玄関は施錠せず鍵をかけない暮らしを実践し、見守り支援をしている。ケアの場面ごとに事例を基にしながら話し合いをするなど、職員の理解が深まるよう工夫しながら研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃、ケアをしながら虐待について話をしたり身体状況は、注意し観察している。虐待防止委員会を設け少ずつ学ぶ機会をつくっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方は居るが職員は、直接後見人の方とのやり取りがないため中々理解が難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、本人様に見学をして頂きホームの雰囲気やお話をさせて頂き利用料や契約についても説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってもらえるような雰囲気作りと苦情があった場合は、前向きにうけとめカンファレンスで話しあい、全体会議にも報告をし意見を聞く。本人や家族の意見、要望を聞き話し合いも行っている。意見箱も設置している。	意見箱を設置している。来訪時には面談を行い家族の声をケアや事業所運営に反映させるよう取り組んでいる。写真付きの『せせらぎ便り』や担当職員手書きの『せせらぎ通信』を月1度家族に送付している。	利用者家族が、事業所内での生活を理解しやすいように、『事業所便り』の写真内容やコメントの再検討を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスを行っている、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。職員の意見、要望があれば会議時に代表伝え検討してもらう。状況に合わせて個人面談をしている。	全職員参加の事業所会議が定期的に行われており、職員の意見や提案を聞く機会がある。職員向けのチェックシートを使い、運営者や管理者と個人面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当てや介護職員改善交付金事業を取り入れている。毎週、代表と各事業所管理者との会議があり職員勤務状況なども報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、全事業所の勉強会を取り入れ新人の入職時は、オリエンテーションをし現場のなかで少しづつ個々にあわせた指導に取り組んでいる。外部の研修にも参加できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会参加や研修会には参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や情報を聞き、必要な情報は、伝えながら、本人の不安、要望に対応できるように話をしながら一つ一つ方法を確認し関わりを持っていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族から困っている事、不安な事などの相談や苦情はその都度聞き管理者、職員で話し合い解答や改善をするよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況などを確認しながら支援の提案をするが、押し付けたり、決めつけないようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理せず、できることのお手伝いを一緒に関わりながら、生活を共にする関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子はできるだけ伝え、家族の思いも伝える。時には協力をして頂くこともあるが、家族関係は、それぞれ違いがあるため理解し相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化により関係作りが難しくなっている人もいるが、家族の協力的で、外出もされている。	日本古来の風習や生活習慣を大切にし、事業所では豆まき・ひなまつり・七夕・花火大会・お月見等を楽しみ、また、お盆には家族と墓参りに行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声かけをし、興味のある事などをしながら関わり合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された直後は、必要時相談などの継続はある。時には、連絡をすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけこれまでの生活習慣を大事にし毎日の生活のなかで本人の思いを聞き、家族と本人と話し合いをしながら支援している。	家族から得た情報や、日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや暮らし方の希望や意向をくみ取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や家族情報、本人との会話、生活の中から確認しひきだすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の状況を把握し本人のペースに合わせた過ごし方に努めている。ひきこもりにならないようにもしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行いながらモニタリングをし本人や家族に要望を取り入れながらケアプランを作成しケアのあり方も見直すようにしている。変化のある時は、すぐにとりいれる。	毎日の状態を記録し、カンファレンスで話し合い状況に即したケアプランを作成している。医師や看護師と情報交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子で気づいたこと、本人の言葉など記録し変化に気づき良いケアができるように努めている。申し送りには情報を報告しカンファレンスで話ができるようにもしている。家族に、記録の開示もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況にあわせた生活が維持できるように支援し看取りなど要望による支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に関係なく車で個人の買い物に行ったり、ゴミ投げを一緒に行ったりしている。夏場は、近所の公園へ散歩やドライブに行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や本人、家族の希望する病院受診も状況により付き添っている。訪問歯科の利用もしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診し、家族対応を基本としているが、職員同行の通院支援も行っている。事業所には看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の様子や体調の変化など看護師に報告や相談をし必要であれば受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は、できるだけ混乱が少なく済むように普段の状況を正確に伝え提供できる情報は伝えている。病院、家族との連絡はとるようにしている。退院も少しでも早くできるように関係者との連絡はしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に終末期についての方針を伝え、確認をとり、同意書をいただいている。その後は、本人の重度化に伴い本人と家族の思いや要望を取り入れながら話し合いを随時行いホームでできる支援に努めている。状況に応じ主治医に細かく報告している。	『重度化した場合の対応に係る指針』を文書化し、早期から家族や、かかりつけ医と連携し話し合いをしている。本人や家族の希望を尊重し、最善を尽くしており、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、その都度急変や事故があった場合には、対応の仕方など再確認はしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、夜間想定とした全体での避難訓練は夏場におこなっているが今回は冬場の計画をしている。その際地域の運営推進会議や家族に結果報告もする。	消防署協力のもと、『複合型ホームせせらぎ』と合同で火災の避難訓練を実施しており、ポータブルストーブやカセットコンロ等の防災用品を準備している。	火災以外の台風・地震・竜巻など、今後おこりうるあらゆる自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、飲料水や食品の災害時備蓄品の再検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し介護させていただくという意識を持つことに心がけているが、今後も言葉使いには、注意していきたい。	利用者の尊厳を傷つける事がないように、日頃から言葉掛けに注意している。会議や事あるごとに職員への意識付けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望にあわせた生活ができるように努めている。声かけしながら自分で決める場面作りもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のリズム合わせた対応をしている。無理せず本人の意思を尊重しその日の状況に合わせているが、ひきこもりにならないように声かけをし観察もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を希望時にお願している。季節にあった服を選んだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き取り入れたり、食器ふきや下膳、米とぎ、味付け等、できる方はお手伝いしている。職員と、食卓を囲みながら一緒に食べている。	利用者の、身体状況・嗜好・栄養バランスに配慮して作成した、献立表に基づいた食事を提供している。職員も一緒に食卓を囲み、個々の嚥下状況や体調の確認をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量はチェックし水分の少ない方には、声かけをしたり、ゼリーなど工夫をしている。水分にムせる場合は、トロミ剤を利用食事量や食べ方などを観察し状況に応じてキザミ、軟菜食など工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後声かけと見守り、一部又は、全介助で行っている。入れ歯、、口の中、舌のチェックをしている。必要時訪問歯科による治療とケアを取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情の観察や行動、排泄チェックをしながら本人のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し必要に応じて下剤調静をしている。牛乳やヨーグルト、乳酸菌飲料なども取り入れている。体操やマッサージなど体を動かす工夫をしている。水分量チェックをしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間の目安はあるが、その日の体調や状況で対応している。足浴、清拭も取り入れている。	週3回を基本とし、本人の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援している。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼間でも休息していただき一人ひとりの生活リズムを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の数量チェックや目的、副作用、名前の確認をし服用時には再度名前を確認し服薬チェック表もつけている。体調の変化時は、観察をし医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた体操、散歩や家事などの役割、趣味活動を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院や買い物、散歩、など予定を立てている場合もあるが、その日の天気や状況、本人の体調あわせながらドライブや買い物にしている。寒くなると外出が難しくなるため玄関前やごみ捨てなど少しの時間外へ出る工夫はしている	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身心の状態に配慮しながら、近隣の公園散策や買い物に出掛けている。冬期間も外気にふれることができるように、外出支援の工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことで安心して過ごせることができたり、買い物時には、自ら支払いができるようにもしている。金額によっては、ホームで管理もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかけているが、電話をかける相手にもよるので事前に家族に問い合わせることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり行事に合わせた手作りの貼り絵など掲示している。事業所内は、床暖なので全体に暖かく、安全。室温を確認し換気をしながら温度調節をしている。テレビの音量などにも工夫もしている。	リビングは、窓から陽射しが差し込み明るい。共用部分には、利用者の作品や行事写真が飾られ、家庭的な空間となっている。利用者の安全面や心身の状況に配慮して全館床暖房になっており、足元から伝わる暖かさが心地良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルが4つあり、それぞれに気の合った方同士が座っている。1階のダイニングで好きな時間を過ごしていただく工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物や使い慣れた物など本人と家族と相談しながら生活しやすく過ごせる工夫している。	居室には、家庭から馴染みの家具やテレビ等を持参し、家族写真や思い出の品が飾られ清掃もいき届き、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手すりを設け、日常使用する場所は、表示をしている、失敗しても責めずに支援し、できることは、見守り、できないことは、介助しながら安全に努め残存能力を尊重した生活の工夫をしている。		